
ニートは異世界に行けない

Toki102

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ニートは異世界に行けない

【Nコード】

N7616R

【作者名】

Tokii102

【あらすじ】

ニートはこの世界に要らない者として、異世界に飛ばされる……が？

（前書き）

練習作品です。前回投稿したものを編集する際、テキストファイルをアップすることが出来なかったため、新規に小説を作成させていただきました。

文法の誤りや、表現の間違い。感想、批判をよろしくお願いします。

ただし、あまり長い感想をいただくと返信に時間が割かれるため、返信が遅くなる可能性があります

『おばあさん、その荷物重そうですね。持ってあげましょうか？』
『おお、これは助かります。すみませんねえ』
『いえいえ。ところで、少しそのトイレに行かせてください』
『はい、私はここで待ってますね』

3畳という狭い空間、その真ん中に置かれているパソコンデスクにはPCモニターが設置されている。引き籠もりがちな俺が四六時中顔を向けている物だ。

「クク……なんて完璧な計画だ。間違いなくこの荷物は俺の物になる」

来るべき日の為、物資は蓄えておくべきだろう。こうでもするか、方法は……くっ……犠牲は付き物だ……。

「ふう……少し休憩するか」

2時間かけて考えついたこの四行で出来る、いつ実行するかもわからない計画を保存しつつ、某巨大掲示板専用ブラウザを起動する。

妹「クリスマスはお兄ちゃんと一緒にがいいな… / /」（871）

「フヒ……これはまたけしからんSSスレで」

某巨大掲示板、その中で人生を半分諦めたような人とかニートとか。まあそんな世間一般でいうとお荷物とか屑とか。そんな人達が集まる、通称 B I P 板。日々生まれるSSスレには当たり外れが大きく、さらには釣り 他人をぬか喜びさせた後に「はい嘘で

すw」とかそんな感じのもの　であふれかえっている今のBIP
では中々良いスレは見つからないがこれは期待できそうだ。

なにしろレス数が多い。釣りスレがここまで伸びるのはありえな
いだろう。

俺はマウスカーソルを迷わずこのスレタイトルに当て、そしてク
リックする。

1 名前：以下、名無しにかわりましてBIPがお送りします 2
014/12/25(土) 18:30:30.84 ID:Pr
omet9e0

ID腹筋となぜこのスレを開いたのか三行で

流石だ。BIP暦5年の俺を欺くとは。おそらくは開いた理由三
行というのがスレを伸ばす原因だろう。厨房が面白がるだろうし。

「死ね」

クリスマスの夜くらい、いい夢を見させてくれてもいいだろうが。
くそ、画像整理でもするか。

「ゆつと、クリスマスケーキ買ってきたから一緒に食べようね」

下の階から俺を呼ぶ声が聞こえる。非常に鬱陶しい。だが、ここ
で突っぱねると愛想を尽かされるまでの時間がまた、縮まってしま
うだろう。いや、すでに尽かされてるかもしれないが。とにかくそ
れは非常にまずいため、とりあえず返事をしておく。無論、親と一
緒にクリスマスケーキを食べるなんてことはしたくなかったが、仕
方ない。反発しないようにすればまだ親のすねをかじっていられる。
だが、それも時間の問題だ。25を越えたあたりから親の態度が
冷たくなっている。そろそろホームレス生活を覚悟しなければなら
ないのではないか。

「働きたくないでござる」

HDD内の画像をフォルダ分けしていると、30代前後の男性が

腹筋して汗だくになっている画像が出てきた。ホモじゃねえ！

しかしこいつ、どこかで……

ん？

こ、この男は……！

父ちゃん……

我が家の収入源だった父が死んだのは中学二年生の頃だ。死因は不明。

中学卒業後、高校にも行かずに働いてた。母も毎日パートに出かけ、帰るのはいつも深夜だった記憶がある。

幾度も幸運に恵まれて経済的にゆとりができたころ、気付けば俺、桐場悠斗は19歳。中卒で何の交流関係もなく、唯一の話し相手が母だった、コミュニケーション能力がほぼ皆無の俺を正社員として雇ってくれる会社などなく、ついに26歳。今では立派なニートです。

昔のバイトで身に付けたスキルなんてとっくに消え失せている。就職は既にあきらめているし、母に捨てられようなら犯罪だって犯す覚悟はある。いや、まあすでにぎりぎりですけどね。ははは。

「なつかしいなあ、父ちゃん。あれから苦労したんだぜ」
なぜ俺のHDDに汗だく父ちゃんの写真が保存されてるのかは分からないが、そんなことはどうでもいい。久しぶりに父ちゃんの顔が見れたのだから。

しかし、じつとながめると、きついなあ。なんで汗だくなんだよ。せめて俺と一緒に写ってる写真とかにしようよ。

汗だく父ちゃんの画像を『おもしろ』フォルダに移動し、画像のフォルダ分けを再開する。

おや、この娘「こ」は……実にはしからん。名前は……ゆこちゃん、か。

「ふ」

右手の高速運動をしていて、気付いたら知らないところに居た。何を言ってるかわからぬーだろうが俺もよくわからない。

「え？ なにこれどうなって……え？」

視界に映るのは真っ白な空間。そこに灰色の霧が宙を浮かぶ。今までで見たことの無い、不思議な光景だ。

なんとなく思ったことは、死んだのではないか、ということ。

だってそうじゃん。夢とは思えないほどのこのリアル！ それに昔ネットで見たぞ。右手の高速運動しすぎて死んだ人がいるって。

ああ、死んだのか。死んだことはかまわないが、HDDの中身、見られたくないなあ……。主に『二次』フォルダ。

「名前を」

「うえええ！？ え、あ、きき桐場悠斗です……」

いきなり後ろから女の若い声が聞こえる。聞いただけで「あ、美人だな」と思える透き通った声だ。

振り向くと、予想通り、今まで見たことのないほど美しい人が宙を浮いている。

これはどう考えても……

ネットに溢れているこういう系統の小説を思い出しつつ、彼女の体を観察する

頭には色取り取りの宝石で裝飾された兜をかぶっていて、着類はほとんど白い布だ。それを羽織って肌を隠している。

彼女の眼に焦点を合わせた途端、体全体にとてつもない重圧を感じ、筋肉をピクリとも動かすことが出来なくなった。口を動かすことすらできず、声を発することもままならない。急いで焦点を外そうとするが眼球は全く動かない。まるで彼女の蒼い瞳に吸い込まれていくようだ。

「桐場悠斗、ですね。私は知恵と戦略の神、アテネです。少し混乱しているように見えますが、状況の説明を開始します」

彼女 アテネはこちらの様子を気にもせず、話を進めようとする

る。というか今、神って言いまして？

「おや、どうやらこの程度の波動でも耐えきれませんか？ どうやらハイデスはまた貧弱な種族をよこしたようですね」

聞きたいことがありすぎるうえに声を発することが出来ず、焦燥感を感じる。波動ってなんだよ！ ハイデスってなんだよ！

「面倒なのでこのまま話を進めます。貴方にはこれからW・N・O・A22世界『ギリシティア』に飛び、エムピーの収集をお願いすることになります」

エムピーってのがよくわからないが……。これは、いわゆるキタコレ状態。ネットと右手の高速運動しかやることの無い、引き籠もりニート生活から、異世界で勇者大冒険生活へ！ 盛り上がってきた。

「無論、貧弱な種族である貴方が、生身でA級世界に飛ぶなど自殺行為。詳しい説明は省きますが、今から貴方に眠る才能を昇華させます。ちよつと痛みはありますが え？」

アテネが眉をひそめ、言葉を止める。俺から眼を外し、宙を見つめて何やらぶつぶつ言っている。そしてくわつと眼を見開き、険しい表情をした後、慈愛に満ちた瞳で俺を見た。

「可哀想に……。どうやら貴方には才能と呼べるものがほぼ皆無のよう。なんとというか、本当に、申し訳ありません。貴方を『ギリシティア』に飛ばすことは不可能です。規定通り、貴方はここの記憶をすべて消去し、元の世界に戻ってもらうことになります」

え？ んな、馬鹿な。どういふことだ。ハーレム生活とか勇者で大活躍生活とか王様で贅沢生活とか……。夢が壊れる……。

「本当に申し訳ありませんでした。これは予想外でした。まさか才能がほぼ皆無とは……。唯一あるのが『タンパク質生産量増加/特大』、しかも既に昇華済みなんて……。普通とは、思えません」

なるほど、ナニがあんなに元気なのはその才能とやらのおかげか。一日7回……。普通じゃないとは思っていたが。

「とにかく、これから貴方をW・No.000世界『Dプロミネント』に転送します。転送中、今回の件に関わる記憶を全て消去しますが、痛みはないので安心してください」
なるほど、痛みはないのか。なら安心して転送されることにしよう。

地球に帰ったら、また今まで通りノート生活を送ることになるのだろうか。

ネットやって、ゲームやって、必死に右手を動かして。

そしていつか親に見放され、ホームレス生活を送るか、犯罪に走るか。

まあ、いいか。先のことは考えても仕方がない。なるようにはなるんじゃないだろうか。

「……貴方はどうやら、『Dプロミネント』において随分とだらけた生活を送っているようですね。親に頼りっぱなしなんて情けないとは思わないのですか？ いや、問うまでもなく情けないですよ。まったく、これなら理解できますよ。才能が皆無なのは、ただ貴方の人生経験が不十分なだけです」

い、痛いところを突いてくるなあ。

「才能が無い理由は解りました。ですが、貴方を帰還させることに変わりはありません」

いきなり、眠気が襲ってきた。体に力が入らなくなり、倒れる。

だが不思議と痛みは無い。

「貴方に、言葉を送ります。記憶器官によく刻み込みなさい」

眠い。ただ眠い。だが、言葉ははつきりと聞こえる。

「今逃げたら」

視界が完全に閉じる。

「今逃げたら、明日はもっと大きな勇気が必要になるぞ」

夢を見ていたような気がする。いや、普段見る夢とは違う。不思議な感じだ。

眼が覚め、いつも通りPCを起動する。高スペックな、最新式PCは数秒で起動を完了する。

巨大掲示板専用ブラウザを起動。いつもと同じBIOS板を選択する。

「つまらない」

眼に映るスレタイトル。どれも笑いを狙ったようなものばかりだが全く面白くない。

くだらない

ブラウザを閉じようとするが、ふとある考えが浮かぶ。

キーボードをカチャカチャと入力し、最後にエンターキーを大きく叩く。

二トを脱出した言葉教える

1 名前：以下、名無しにかわりましてBIOSがお送りします 2
0 2 0 / 1 2 / 2 5 (土) 1 9 : 5 4 : 3 9 . 2 1 ID : H I
d E s 4 4 4 0
お願いします

スレの作成から数十秒経った後、更新すると思ったより多くのレスがついていた。

2 名前：以下、名無しにかわりましてBIPがお送りします 2
020/12/25(土) 19:54:59.70 ID:aT
EnaA110

今逃げたら明日はもっと大きな勇気が必要になるぞ

3 名前：以下、名無しにかわりましてBIPがお送りします 2
020/12/25(土) 19:55:08.64 ID:aR
eSup50

今逃げたら明日はもっと大きな勇気が必要になるぞ

4 名前：以下、名無しにかわりましてBIPがお送りします 2
020/12/25(土) 19:55:16.02 ID:Ze
uszuseo

今逃げたら明日はもっと大きな勇気が必要になるんじゃない？

皆、似たようなことを書いている。

昔にも誰かに似たようなことを言われた気がする。

「明日はもっと大きな勇気が要る、か」

(後書き)

後から自分の小説を読むと恥ずかしいなあと思った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7616r/>

ニートは異世界に行けない

2011年11月16日23時49分発行